

基本構想（改訂案）

令和元年9月2日

第1章 めざす将来像

安芸太田町のめざす将来像を次のとおり定めます。

豊かさあふれ つながりひろがる 安芸太田

～ほどほど便利 とびきり幸せ 笑顔かがやく里山のまち～

安芸太田町は、広島デルタを形成した太田川の源流域に位置し、県内最高峰の恐羅漢山をはじめとする山々に囲まれ、美しい自然環境とともに産業や暮らしを築いてきました。

また、政令指定都市の広島市に隣接するため、ほどよい利便性を享受しながらも、人と人の顔が見えるつながりを大切に、人情のある地域コミュニティを守り、育ててきました。

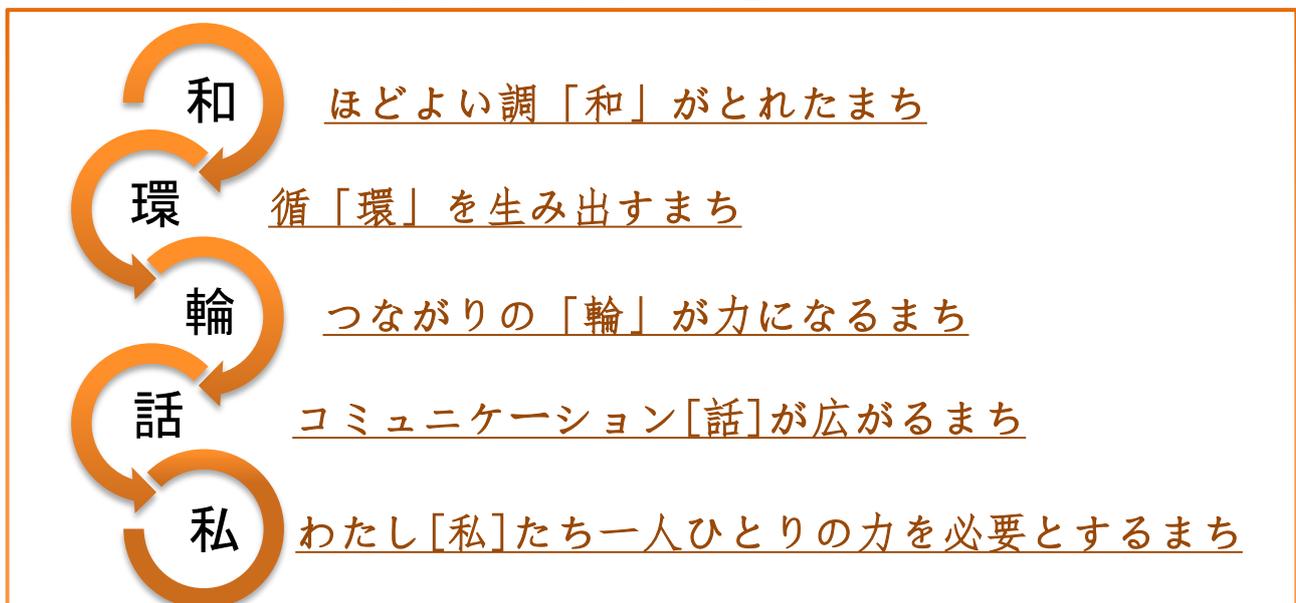
このような環境の中、安芸太田の資源である「豊かな自然」と「人情」を強みに、町内外に人と人とのつながりが広がるまちをめざします。

ほどほど：ちょうど良い程度、適度という意味合いで用いています。(参照：広辞苑)

第2章 まちづくりの視点

私たちが、安芸太田町のめざす姿を実現する上で、大切にしたい基本的な考え方として、まちづくりの視点を次のとおり定めます。

安芸太田町の「わ」づくり



和

ほどよい調「和」がとれたまち

人口減少や少子高齢化等により地域社会は大きく変化しています。また、社会が成熟化し、人々の価値観も多様化していくなかで、持続可能なまちづくりを進めるにあたっては、調和の取れたまちづくりを基本とします。

環

循環「環」を生み出すまち

太田川の源流域を有する自治体の責任として、自然環境に配慮したライフスタイルを促進し、環境と共生し、自然と文化を次世代へ循環させる取組みを進めます。

輪

つながりの「輪」が力になるまち

人口減少や少子高齢化が進むなかで、「人と人」「地域と地域」がつながりあい、支え合って力強く前進するまちづくりを進めます。

また、国、県、広島市をはじめ近隣市町、企業、大学、NPO等多様な主体とのネットワークを構築し、まちづくりを推進します。

話

コミュニケーションが広がるまち

一人ひとりの居場所、出番があり、幸せや安心が実感される地域社会を実現するためには、対話やふれあいなどほどよい距離感でのコミュニケーションが不可欠です。

また、住民と行政が情報を共有し、協力し合うすみよいまちづくりを進めます。

私

わたしたち一人ひとりのちからを必要とするまち

わたしたち一人ひとりが未来への責任をもって、地域の課題、身近な課題の解決に向けて、考え、行動することが求められています。誰もが、健康でいきいきと活躍し続けられる地域社会の実現をめざします。

これらのまちづくりの視点は、将来像の実現をめざして進めるさまざまな分野における諸施策を推進する上での共通指針であり、本計画を進める上での基本的な姿勢として位置づけます。

第3章 各施策「分野」と「まちづくりの基本方向」

また「まちづくりの視点」を持ちながら安芸太田町のめざす将来像を実現するために、後期基本計画においては、「まちづくりの基本方向」について、各分野を横断的に次のように関連性を定め、各分野の連携と相乗効果を図ります。

【各施策「分野」と「まちづくり基本方向」との関連性】

まちづくりの 基本方向 分野	自然環境と 人間環境の 調和のとれ たまち	出産から成 人までのラ イフスタイ ルをつなげ るまち	体と心がち ょうどいい 幸せを感じ るまち	みんなで支 え合う安心 なまち	ゆるやかに つながって いるやさし いまち	やりたいこ とをカタチ にしてつな ぎあうまち	あなたの力 が必要です Hot(ほっど) な心が通い あうまち
定住・人口対策	○						○
子育て・教育・次世代育成	○	○				○	
健康・医療・福祉			○		○		
社会基盤・防災・防犯				○			
生活利便性・環境	○	○	○		○	○	
産業・観光・しごと	○				○	○	
コミュニティ		○		○			○

- 定住人口の確保による人口減少が抑制され、地域経済や地域コミュニティが維持されます。
- 豊かな自然環境を享受できる安芸太田町の循環型の生活スタイルにより移住者が増加しています。
- 豊かな自然環境やその中から培われてきた文化が継承され、次世代へ循環させるために、自然環境を最大限に活用し、「ヒト、モノ、カネ」が地域で循環されています。

【関連する分野】

【アンケート・地域懇談会・事業者団体ヒアリングの結果】

定住・人口対策

- 住民は「自然環境の豊かさ」、「景観の美しさ」を誇りに思い、「都市との近接性」や「林業資源」を、これからのまちづくりに生かしていくべき特色としています。
- 空き家や空き地、遊休農地等の整備について、安全面、景観面からも具体的な対策が強く求められています。
- 人口減少により一人ひとりの役割は大きくなっており、昔からの地域の決まり事やつながりの強さに、若い世代や転入してきた住民は負担感や閉塞感を感じています。
- 公営住宅等の老朽化から、定住促進に向けた住環境の整備が求められています。
- 町内への移住者支援等の評価は高くなっている一方、町内に住んでいる住民への住宅改修やその他定住に必要な支援等のさらなる改善が求められています。

子育て・教育 次世代育成

- 中高校生の多くが「安芸太田町の魅力」や「誇りに思うこと」、「これからのまちづくりに活かしていくべき特色」として「自然環境」や「景観」を挙げています。
- 住民の多くは「将来、安芸太田町がどのような町であってほしいか」との問いに対して、「子育て環境や教育環境が充実し、次世代をはぐくむ町」を挙げています。
- 地域の歴史性や豊かな自然環境との調和のとれた景観の大切さを見直し、次世代につなげるための取組みが求められています。

生活利便性 環境

- 「買い物や交通が不便であること」、「地域のしきたりや付き合いの多さ」を住み続けたくない理由として挙げています。
- 高齢化から交通弱者の増加により、多くの住民が買い物や通院など普段の生活にも支障をきたしており、生活交通網の改善が求められています。
- 住民の多くは安芸太田町の豊かな自然環境と資源の継続的な保全を求めています。また林業などを活かした再生可能エネルギーの活用が必要だと感じています。

産業・観光 仕事

- 住み続けたくない理由として、「働く場所や仕事がない」ことを挙げています。また定住促進のためには仕事が不可欠であり、仕事の在り方、新たな価値の創出による産業の活性化をはかることが求められています。
- 年齢や障がいの有無等に関わらず、誰もが役割をもって社会に参加できる仕組みづくりが求められています。

- 子どもを産み育てやすい環境、切れ目のない子育て支援が充実し、安心して出産・子育てをする住民が増えています。
- 小中高校の連携強化による学校教育の推進を通じて、地球・世界的規模の視野を持ち、進んで世界や地域社会に貢献していく健康で向上心のある子どもが育っています。

【関連する分野】

【アンケート・地域懇談会・事業者団体ヒアリングの結果】

子育て・教育 次世代育成

- 住民の多くが、子育てや次世代の育成に力を入れたまちづくりを望んでいます。
- 「少子化対策・子育て支援策」、「幼児教育支援」、「小中学校教育支援」、「乳幼児支援」に対する満足度は平成 27 年と比較して高くなっており、一方で「小・中・高の医療支援」の施策に対する優先度は高くなっています。
- また「高校教育に対する支援の取組み」の満足度は大幅に上昇しているものの、施策に対する優先度も高くなっており、今後もさらに加計高校との連携の取組みを強化することが求められています。
- 子育て世代の多くは、町内に小児科を設置することなど、町内で安心して過ごせる小児医療環境を求めています。
- 英語やプログラミング教育など新たな必修科目が追加されることや、近年の学習意欲の向上などから、多様な学習機会を求めています。
- 少子化により学校行事や部活動などが限られてきていることなどから、卒業後、進学や就職によって慣れない大人数の場などへの不安を感じています。

生活利便性 環境

- 少子化により子ども同士が交流する機会が減少しており、中学生や高校生からは、公園や買い物をする場所、カフェなどの集える場所が求められています。
- またその交流の場に集うための交通等の手段について、利便性が求められています。
- 安芸太田町の自然環境を象徴する国指定特別名勝三段峡などの自然環境を活かした教育を通して、環境保全への関心を高める必要があると感じています。
- 小中高生がスポーツなどを楽しめる環境の整備と、その場所にアクセスする手段が求められています。

コミュニティ

- 少子高齢化から地域ぐるみで子育てをする必要性が高まっており、世代を超えたコミュニケーションを持てる場づくりが必要だと感じています。
- 交通指導や朝のあいさつ運動など、地域で子どもたちの安全を守っていくことが必要だと感じています。

- 住民の多くが生涯現役で心も体も健やかに暮らし。「元気」と感じる人が増えています。
- 住民にとって安心できる町内の医療体制、高度医療や緊急医療等に関する広域的な連携体制が確立しています。
- 障がい者の自立を支える環境が整い、住み慣れた地域で安心して暮らしています。
- 高齢者の自立した地域生活を包括的に支援する地域包括ケアシステムの深化・推進が図られ、誰もが互いの人権や個性を認め合い、助け合い、支え合いが活発に行われています。

【関連する分野】 【アンケート・地域懇談会・事業者団体ヒアリングの結果】

医療・健康 福祉

- 「町内医療体制の充実」や「安芸太田町病院事業の充実」における満足度は高くなっている一方、介護にかかる負担や不安が大きくなってきており、住民の多くはさらなる地域医療、福祉サービスの充実を求めています。
- 働き世代からの健康づくりへの意識が高まっており、多くの住民は、住民が健康に暮らしていけるまちづくりを望んでいます。
- 高齢化がすすむことで、住民の多くは地域で自助共助の助け合いの意識を持つことが重要だと感じており、地域で高齢者を支えることができる見守りなどの仕組みづくりを求めています。
- 高齢者や障がい者など誰もが生きがいをもって社会に参加でき、一人ひとりが役割をもって生活できる環境づくりが求められています。
- 住民の多くはさらなる福祉サービスの充実を求めています。

生活利便性 環境

- 通院等における公共交通について、「タクシー」への助成や「あなたく」など、さらなる利便性の向上が求められています。
- また買い物や金融機関、その他生活に必要な施設等へのアクセスについて、交通弱者が利用しやすいよう、さらなる公共交通の改善を求めています。
- 豊かな自然環境を活かしたアクティビティなど、働き世代からの健康づくりができる環境が求められています。

- 住民・行政が協働による災害への備えが整い、災害発生時にも被害を低減させる防災基盤が整備されています。
- 住宅、生活用道路、生活用水、排水処理施設等が適切に維持管理され、安心して暮らせる環境が整っています。
- 消防団及び、地域自主防災組織等の地域の防災力によって、地域住民の安心感が確保されています。

【関連する分野】

【アンケート・地域懇談会・事業者団体ヒアリングの結果】

社会基盤 防災・防犯

- 住民の多くは避難環境の改善、未然に災害を防げる災害に強いまちづくりを求めている。自助・共助による地域防災力の強化を見直すことが望まれています。
- 道路や上下水道など生活を支えるインフラの老朽化が進んでおり、不安のない適切な管理が求められています。
- また雪害による除雪や防災体制の見直しが求められています。
- 公共料金の引き上げに伴う負担軽減が望まれています。
- 「有害鳥獣対策」における優先度は大幅に高くなっており、自然環境に配慮した有害鳥獣対策が求められています。
- 防災情報や災害発生時の避難に関する情報について、高齢者にもわかりやすく全住民にリアルタイムな情報が伝わるよう、IT技術を駆使した情報の伝達方法の改善が求められています。

コミュニティ

- 防災対策や地域の支えあいが充実し安全に暮らせるまちを求めています。
- 地域の防災力の強化、避難所の整備や地域の防災体制の見直しが求められています。
- 独居高齢者の見守りなど、地域で支え合う必要性が高まっており、地域と行政が協働した避難誘導等、防災の仕組みづくりが求められています。
- 情報通信技術の恩恵を受けるため、利用が不自由な住民を対象とした説明会やセミナーの開催が求められています。

- 環境保全意識の高い住民が増え、多様な主体による環境保全活動や循環型社会づくりへの取り組みが活発になっています。
- 生活利便性の高い交通体制が確保され、居住地や年齢等に関わらず、移動手段の確保が最適化されています。
- IoTの進展により、教育、防災、福祉・医療、交通等あらゆる分野において、利便性が向上しその利便性を住民が享受しています。

【関連する分野】

【アンケート・地域懇談会・事業者団体ヒアリングの結果】

生活利便性 環境

- 住民の多くは、過疎・高齢化による生活環境の変化から、住居地域や年齢等に関わらない交通弱者への、公共交通の抜本的な改革による利便性の向上を求めています。
- また二次交通による町内事業者同士の横連携が可能な体制づくりを求めています。
- 町外に通勤・通学等で通うために利用する公共交通や車利用の満足度は高まっているものの、一方で買い物や通院、日常生活で利用する公共交通や高速道路の利用に対する補助が求められています。

医療・健康 福祉

- 住民の多くは、将来、免許返納等により車の利用ができなくなった場合の医療・福祉サービスへの不安・負担を漠然と大きく感じています。
- また在宅における介護負担を軽減するための知識習得や制度理解の需要が高まっており、高齢者でもわかりやすい情報の発信を求めています。

産業・観光 仕事

- 二次交通を活用したヒト・モノ・カネ町内循環型の観光産業の発展を求めています。また併せてエコツーリズム推進法の認定を目指すことを求めています。
- 産業・観光の発展を目的とした事業者・団体同士の連携をはかるマッチング機会や、意見交換を行える話し合いの場を求めています。
- 販路の開拓や事業の継承など、町内事業者とヒトをつなぐことができる場づくりが求められています。
- 町内の事業者の多くは、国立公園である恐羅漢山や季節に依存する観光産業について、より多くの誘客・観光消費額の増加を望んでおり、町内循環型させる仕組みづくりと誘客のための情報発信力の強化を求めています。

- 農林水産業、商工業、観光産業等の産業基盤がソフト面、ハード面で整備され、本町の地域資源を活かした「しごと」が生み出されています。
- 本町の生産者や事業者が、町内外の様々な主体と繋がり、販路の拡大や品質の向上につながっています。
- 「安芸太田ブランド」が確立し、多くの商品やサービスが安芸太田ファンのから支持され、全国や海外に拡散されています。

【関連する分野】

【アンケート・地域懇談会・事業者団体ヒアリングの結果】

子育て・教育
次世代育成

- 中学生、高校生の多くは、将来町に住み続けたい気持ちを強くもっており、若者にとって魅力のある雇用の場づくりを求めています。
- 次世代を担う若者が町内で働ける仕組みづくりが求められています。
- 町の課題に気づき、解決策を見出し、自ら考えて課題解決を行える次世代の人材を育成できる環境づくりが望まれています。

産業・観光
仕事

- 住民の多くが企業・施設や団体の誘致、サテライトオフィスの誘致や、産業振興など雇用創出の取り組みにさらに力を入れて取り組むことを求めています。
- 新たな事業を起こすため、また事業の拡大を図る事業者は優れた人材の育成・登用を求めており、人材育成にかかる補助や協働の仕組みづくりを望んでいます。
- 事業を継承する人材が不足し、また高齢化による事業衰退が課題となっている事業者が多く、さらなる雇用の促進、人材の育成、事業継承者のマッチングなど、町の産業基盤を支える仕組みづくりが求められています。
- 農業基盤の充実と農業所得向上を図るため、販路の拡大や他事業者とのマッチングの場の提供、事業拡大にかかる補助等の検討が求められています。
- 産業・観光において、町・地域・事業者の共通認識の中で同じ方向性に向かうことができるよう、「安芸太田ブランド」を明確にするための検討の場と、情報の共有が求められています。
- 道の駅を拠点とした産業・観光の拠点整備と改善を求める声が多く、行政主導の計画とはせずに、事業者を中心とした計画策定段階での協議・意見交換の場が求められています。
- ICT等先進技術の発展から、在宅ワークなど働く場所にとらわれない多様な働き方への関わり方と雇用の促進が求められています。

生活利便性
環境

- 住民は「自然環境」や「景観」、「林業資源」、「特産品」、「都市との近接性」をこれからのまちづくりに生かしていくべき特色としてあげています。
- 一方で産業の活性化による環境汚染、自然破壊を懸念する声もあがっています。

- 住民生活を支える基盤となる地域コミュニティが適正な規模、エリアで維持され、住民同士の見守りや、有事の際の支え合いができています。
- 関係人口との交流が盛んになり、地域コミュニティの活性化に貢献しています。
- 日常的に「住民と行政」や、様々な主体間での情報交流の場が設定され、住民協働のまちづくりが進んでいます。

【関連する分野】

【アンケート・地域懇談会・事業者団体ヒアリングの結果】

定住・人口対策

- 地域に確かなつながりがあること、助け合いの心があることを大切に感じています。
- 一方で、「住み続けたくない」理由として「地域のしきたりや付き合いの多さ」を挙げており、一人ひとりの生き方に過干渉しない地域の雰囲気づくりを求めています。
- 住民の多くは、町外者に対して、町の魅力を十分にPRできていないと感じています。
- ITを活用した情報発信手段の工夫と改善が求められています。

コミュニティ

- 住民の多くは、少子高齢化により地域が衰退することを懸念しています。
- 住民の多くは、これまでの地域の枠組みでは、自治防災組織など自治会として効率的に機能できない地域が増えてきているため、地域の再編が必要だと感じています。また併せて地域マスタープランの検証と見直しをすすめるべきだと感じています。
- 地域で実施しているイベントや行事について、町から補助を受けているものがある中で、その一部は継続することが目的となって負担が大きいと感じており、地域再編と併せて町全体で見直す仕組みづくりを求める声があがっています。
- 住民主体の様々な活動などにおいて、防災無線の有効活用とその活用基準の明確化を求めています。
- 住民の多くは、町の取組みがわかりづらく感じており、各世代にわかりやすい情報公開を求めています。また懇談会や行政との意見交換の場を設けることは良い感じる一方で、住民へのフィードバックが乏しいと感じています。
- 町財政を健全化するため、抜本的な経費の削減とIT技術を活用したペーパーレス化、業務の効率化をはかることが求められています。
- 住民の多くは、相次ぐ不祥事で、町の信頼が薄れてきていると感じています。